

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

NTT・TC リース株式会社（証券コード：ー）

【変更】

長期発行体格付	AA+	→	AAA
格付の見通し	安定的		
債券格付	AA+	→	AAA

【据置】

国内CP格付	J-1+		
--------	------	--	--

■格付事由

- (1) 20年にNTTと東京センチュリーの資本業務提携の一環として設立されたリース会社で、両社の持分法適用関連会社。営業資産や従業員は、NTTファイナンスのリース事業及びグローバル事業の一部を承継している。NTTグループ唯一のリース会社で、既存の事業に加え、グループの成長戦略において金融面でサポートするほか、グループのオフバランスニーズに対応している。今般、「企業グループの傘下会社の格付方法」の改定を踏まえ、グループの支配・関与度および経営的重要度の観点から、グループによる支援の蓋然性を見直した。結果、当社の発行体格付については、NTTグループのグループ信用力「AAA」相当を基点に評価し、グループ信用力と同等とした。同グループは議決権を50%保有し、代表取締役を含む半数の取締役を派遣している。NTTとは「NTTグループ協定」を締結するなど経営管理の一体性も強く、必要に応じて適時適切な財務支援が行われる可能性が高い。グループにおける戦略的・機能的な重要度も極めて高いとJCRではみている。
- (2) 戦略上のNTTグループとの結びつきは一段と強まっている。リース事業においては同グループやその顧客に対する取扱高が6割近くに上昇している。近年は既存分野に加え、環境、教育、医療など新たな成長分野に注力している。グループ各社とは、国内外のデータセンター向けのリースや保証、メガソーラーなどの環境関連向けリース、割賦債権流動化など多岐に亘る領域で連携がみられる。こうしたグループの成長戦略にかかる取り組みが、当面の当社の成長をけん引する見通し。東京センチュリーとは、同社が得意とする不動産分野などで協業が進んできた。同社のノウハウや営業基盤の活用が一段と進展するか見守っていく。
- (3) 事業基盤の強化は進み、収益力は高まっている。リース事業ではNTTグループに加え、官公庁や大企業向けの良質な営業資産を積み上げている。グローバル事業では航空機や船舶のアセットファイナンスなどを手掛けており、コロナ禍の影響を受けやすい分野ではあるが、その影響は限定的である。取引採算の改善にも取り組んでおり、引き続き堅調な業績推移が見込まれる。
- (4) 自己資本比率は大手リース会社と比較して低い。ただ、NTTグループの戦略的な金融会社という位置づけや、保守的なリスク管理態勢の下、リスク量は抑制された水準にあることなどを踏まえれば、資本充実度に問題はない。事業領域の拡大が見込まれる中、引き続き適切なリスク管理が維持できるか注目していく。資金調達は独自に行っているが、CPや金融機関借入を中心に安定した調達ができおり、流動性に懸念はない。

(担当) 加藤 厚・坂井 英和

■ 格付対象

発行体：NTT・TC リース株式会社

【変更】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	AAA	安定的

対象	発行額	発行日	償還期日	利率	格付
第12回無担保社債（社債間限定同順位特約付・適格機関投資家限定分付分割制限少数人数私募）	59億円	2022年8月25日	2027年8月25日	0.310%	AAA
第13回無担保社債（社債間限定同順位特約付・適格機関投資家限定分付分割制限少数人数私募）	56億円	2022年8月25日	2032年8月25日	0.615%	AAA

【据置】

対象	発行限度額	格付
コマーシャルペーパー	10,000億円	J-1+

格付提供方針に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2022年10月25日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：宮尾 知浩
主任格付アナリスト：加藤 厚
3. 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」(2014年1月6日)として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」(2014年11月7日)、「リース」(2013年7月1日)、「企業グループの傘下会社の格付方法」(2022年9月1日)として掲載している。
5. 格付関係者：
(発行体・債務者等) NTT・TC リース株式会社
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果的正確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL: 03-3544-7013 FAX: 03-3544-7026

株式会社 **日本格付研究所**

Japan Credit Rating Agency, Ltd.

信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル